

2019 年

「海田町観光振興アクション
プラン」



海田町

もくじ

I. 策定にあたって

- 1. 策定の趣旨・・・・・・・・・・1
- 2. 位置づけ及び計画期間・・・・・・・・・・1

II. 海田町の観光資源・・・・・・・・・・2

III. 海田町の観光の現状と取り巻く環境

- 1. 観光客の動向・・・・・・・・・・3～6
- 2. 海田町観光の満足度・・・・・・・・・・6～9
- 3. 現状と課題・・・・・・・・・・10～11

IV. 観光にかかる目標設定

- 1. 国の観光交流人口試算・・・・・・・・・・12
- 2. 海田町観光交流人口の試算・・・・・・・・・・13～15

V. 海田町の取組

- 1. 基本施策と取組・・・・・・・・・・16
- 2. 取組と具体的な実施内容について
 - (1)西国街道周辺を活かした魅力づくり・・・・・・・・・・17～19
 - (2)「スポーツ・文化・自然のまち」海田を活かした魅力づくり・・・・・・・・・・20～21
 - (3)歴史・文化に親しみ、愉しむことが出来る体制づくり・・・・・・・・・・22～24



I. 策定にあたって

1. 策定の趣旨

海田町では、平成 22 年 12 月に、平成 23 年度から平成 32 年度までの 10 年間を計画期間とする「第 4 次海田町総合計画」を策定し、さまざまな施策を展開してきた。今後、西国街道周辺に整備される（仮称）海田公民館や（仮称）織田幹雄記念館や旧千葉家住宅などの海田町の歴史や文化に関する資源を活用した観光振興に取り組み、交流人口の増加を図ることを企図している。

具体的には、海田町の有する観光資源の魅力や課題を洗い出したうえで、観光のテーマや今後の方向性、目指すべき将来像を定めるとともに、町民や事業者、関係機関、行政など、それぞれが担う役割等を明らかにするため、観光分野における具体的戦略として「観光振興アクションプラン（観光振興実施計画）」を策定することを目的とするものである。

本事業の実施に際しては、今後、近隣の自治体等と連携して観光振興に取り組む体制づくりも視野に入れて、広域的な視点から計画策定を実施する。

2. 位置づけ及び計画期間

本アクションプランは、これまでの海田町魅力づくり推進課において進捗させてきた項目と今回のヒアリング調査や検討委員会が出された意見などをもとに、2021 年度から 2030 年度に新しい海田町総合計画策定が予定されていることから、そこにつなげることの出来る計画として策定する。

計画期間は、2019 年から 2023 年までの 5 年間とする。

【魅力づくり推進課の取組と本アクションプランの位置づけ】

	2017年	2018年	2019年	2020年 東京五輪&パラリンピック開催	2021年 ～2023年
海田町の魅力づくりに向けた取組	・西国街道活性化に向けた取組 旧千葉家住宅の修繕工事等 ・地域資源の発掘 これまでの魅力の再確認・新たな魅力の発見 ・ホームページ、フェイスブック等を利用した情報発信 海田町の魅力を町内外にPR ・織田幹雄氏の顕彰 織田幹雄氏の記念館設置、動画の有効的な活用		※海田町観光振興 アクションプラン 新しい海田町総合計画 の策定につなげるものとする。		
地域活性化に向けた取組	・空き屋等の対策 西国街道付近の魅力的な空き家等を調査した利用促進 ・定住促進の取組 商工会等と意見交換し定住促進策検討 ・産業振興の取組 地元企業との連携を図り、強固な関係づくり				
各種団体等との連携による取組	・民間任意団体との連携強化 かいじゅうネット、国際交流協会等との密接な連携 ・広島安芸商工会との連携強化 創業支援や土産物開発等の取組 ・広島県の観光課、観光協会との連携強化 海田町の魅力発信に向けた取組				

II. 海田町の観光資源

海田町の有形・無形観光資源としては以下が挙げられる。

指定文化財
旧千葉家住宅（書院）【県重要文化財】
旧千葉家住宅（庭園）【県名勝】
海田観音免のクスノキ【県天然記念物】
畝観音免第1号古墳【町史跡】
畝観音免第2号古墳【町史跡】
火ともしまつり【町無形民俗文化財】
貞福寺のモッコク【町天然記念物】
三宅家住宅主屋【国登録有形文化財】
三宅家住宅衣裳蔵【国登録有形文化財】
三宅家住宅新蔵【国登録有形文化財】
三宅家住宅古米蔵【国登録有形文化財】
三宅家住宅新米蔵【国登録有形文化財】
三宅家住宅裏長屋門【国登録有形文化財】

場所
西国街道沿いの街並み
灘道・馬の背
瀬野川・瀬野川河川敷
海田スケートパーク
日ノ浦山登山

イベント
かいた七夕さん
海田市祭り
公民館まつり
ワッショイかいた
ふれあい朝市&エコマーケット
骨董市
健康ウォーキング
駅伝大会
マラソン大会

コンサート
NHK交響楽団団員によるクラシックコンサート
ふれあいコンサート
サマーコンサート
和太鼓フェスティバル

文化財
加藤街楽の墓
一里塚跡
梵鐘（明顕寺）
脇本陣跡
御茶屋跡
和船雛形（熊野神社）
三十六歌仙絵馬（熊野神社）
真福寺聖観音菩薩立像
日浦山城跡
永山大学の墓
安井城跡
出崎森神社
中野坊観音像
稲葉道標
十二神将立像
東谷土器出土地
東谷遺跡
権現貝塚
小請山第1・2号古墳
西谷貝塚
西谷第1・2号古墳
貞福寺霊泉跡
赤穂道標
畑谷貝塚
仏の顔

施設
海田総合公園
ふるさと館
ひまわり大橋
九十九橋

III. 海田町の観光の現状と取り巻く環境

1. 観光客の動向

(1) 県内外客等の動き

2017 年の海田町の観光客数は 28 万 1 千人であった。このうち、町内客は 18 万 4 千人（構成比 65.5%）、県内（町外）客は 9 万 7 千人（同 34.5%）を占め、県外客は統計上 0 となっている。

2008 年と 2017 年を比べると、町内客は 15 万人から 18 万 4 千人へと 3 万 4 千人増加（増加率+22.7%）しているのに対し、「県内（町外）客」は 9 千人（同+10.2%）の増加にとどまっている。

海田町内外客別の観光客数（2017 年）及び推移（2008 年～2017 年）

（単位：千人，％）

	観光客数	構成比
町内客	184	65.5
県内（町外）客	97	34.5
県外客	0	0.0
合計	281	100.0

（単位：千人）

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
町内客	150	169	159	156	172	168	174	182	176	184
県内（町外）客	88	97	92	91	96	95	96	97	89	97
県外客	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	238	266	251	247	268	263	270	279	265	281

（資料）広島県「広島県観光客数の動向」

(2) 日帰り客、宿泊客の動き

2017 年の海田町の観光客数 28 万 1 千人のうち、「日帰り」は 28 万人（構成比 99.6%）、「宿泊」は 1 千人（同 0.4%）であった。このように、海田町の「宿泊」の割合は、広島県（12.8%）を大幅に下回っている。

2008 年と 2017 年を比べると、「日帰り」が 23 万 7 千人から 28 万人へと 4 万 3 千人（増加率+18.1%）しているのに対し、「宿泊」は 1 千人で横ばいとなっている。

海田町 日帰り、宿泊別の観光客数（2017 年）及び推移（2008 年～2017 年）

（単位：千人，％）

	観光客数	構成比
日帰り	280	99.6
宿泊	1	0.4
合計	281	100.0

（単位：千人）

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
日帰り	237	265	250	246	267	262	269	278	264	280
宿泊	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	238	266	251	247	268	263	270	279	265	281

（資料）広島県「広島県観光客数の動向」

地域経済分析システム（RESAS）による 2013 年から 2017 年までの海田町の宿泊者数の実績（観光目的以外も含む）をみると、海田町に宿泊する県外客は、大阪府、福岡県、山口県（網掛け）からの来訪者が多いことが読み取れる。

海田町の宿泊者数の推移（観光目的以外も含む）

順位	2013年			2014年			2015年			2016年			2017年		
1位	熊本	234人	32.1%	愛媛	265人	12.7%	大阪	1,441人	30.6%	大阪	348人	17.5%	広島	305人	18.4%
2位	愛知	157人	21.5%	山口	207人	9.9%	広島	619人	13.1%	広島	312人	15.7%	岡山	206人	12.4%
3位	徳島	143人	19.6%	岡山	191人	9.2%	神奈川	474人	10.1%	北海道	176人	8.8%	大阪	206人	12.4%
4位	鳥取	78人	10.7%	福岡	190人	9.1%	埼玉	417人	8.8%	福岡	147人	7.4%	東京	200人	12.1%
5位	奈良	48人	6.6%	千葉	161人	7.7%	福岡	280人	5.9%	山口	138人	6.9%	山口	119人	7.2%
6位	大阪	39人	5.3%	島根	138人	6.6%	山口	262人	5.6%	島根	136人	6.8%	福岡	81人	4.9%
7位	京都	30人	4.1%	大阪	117人	5.6%	京都	200人	4.2%	兵庫	105人	5.3%	埼玉	72人	4.3%
8位				北海道	114人	5.5%	愛媛	143人	3.0%	東京	96人	4.8%	宮崎	69人	4.2%
9位				神奈川	92人	4.4%	群馬	128人	2.7%	千葉	91人	4.6%	島根	53人	3.2%
10位				東京	92人	4.4%	愛知	123人	2.6%	愛知	85人	4.3%	長崎	52人	3.1%
—				その他	516人	24.8%	その他	627人	13.3%	その他	355人	17.8%	その他	295人	17.8%
合計		729人	100.0%		2,083人	100.0%		4,714人	100.0%		1,989人	100.0%		1,658人	100.0%

（参照）地域経済分析システム（RESAS） 観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」

地域経済分析システム（RESAS）により海田町の滞在人口を昼間（14 時）と夜間（20 時）で比較したところ、上位 10 位までの特徴としては、近隣の山口県、岡山県は帰宅等により昼間より夜間の滞在人口が減少している（山口県 203 名減、岡山県 65 名減）一方、遠隔地となる東京都、大阪府等は、昼間より夜間の滞在人口が多い（東京都 104 名増、大阪府 139 名増）。

海田町の滞在人口（2017 年 9 月～2018 年 8 月、15 歳以上 80 歳未満）

時間帯14時

（加重平均地域外比率2.4%，累計人数6,249名）

	1年累計	1か月平均
山口県	1,024 名	85 名
大阪府	694 名	58 名
岡山県	569 名	47 名
福岡県	508 名	42 名
東京都	467 名	39 名
兵庫県	423 名	35 名
愛知県	346 名	29 名
神奈川県	252 名	21 名
島根県	208 名	17 名
鳥取県	135 名	11 名

時間帯20時

（加重平均地域外比率2.1%，累計人数5,814名）

	1年累計	1か月平均
大阪府	833 名	69 名
山口県	821 名	68 名
福岡県	586 名	49 名
東京都	571 名	48 名
岡山県	504 名	42 名
兵庫県	401 名	33 名
愛知県	314 名	26 名
神奈川県	241 名	20 名
鳥取県	206 名	17 名
島根県	190 名	16 名

（参照）地域経済分析システム（RESAS） 観光予報プラットフォーム推進協議会

(3) 交通機関別の観光客の動向

2017 年の海田町の総観光客数 28 万 1 千人が利用した交通機関をみると、「自家用車」が 24 万人（構成比 85.4%）と最も多く、次いで「バス」1 万 5 千人（同 5.3%）,「鉄道」8 千人（同 2.8%）の順となっている。

2008 年と 2017 年を比べると,「自家用車」は 20 万 3 千人から 24 万人へと 3 万 7 千人（+18.2%）増加しているが,それ以外の交通機関はほぼ横ばいとなっている。

交通機関別の観光客数及び観光客推移（2008 年～2017 年）

（単位：千人，%）

	観光客数	構成比
鉄道	8	2.8
バス	15	5.3
船舶		0.0
航空機		0.0
自家用車	240	85.4
その他	18	6.4
合計	281	100.0

（資料）広島県「広島県観光客数の動向」

（単位：千人）

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
鉄道	7	8	7	7	8	8	8	8	7	8
バス	13	14	13	13	14	14	14	15	14	15
船舶										
航空機										
自家用車	203	227	215	211	229	225	231	239	227	240
その他	15	17	16	16	17	16	17	17	17	18
合計	238	266	251	247	268	263	270	279	265	281

（資料）広島県「広島県観光客数の動向」

(4) 外国人観光客の動き

広島県を訪れる外国人観光客数は,宮島など主要観光地への訪問が増加の一途をたどっている。

広島県 外国人観光客の推移（2008 年～2017 年）

（単位：千人）

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
外国人観光客	559	513	618	487	677	843	1,047	1,661	2,015	2,433

（資料）広島県「広島県観光客数の動向」

また,広島県の観光消費額について,2008 年と 2017 年を比べると,総額では 2,974 億円から 4,112 億円へと 1,138 億円増加（増加率+38.3%）し,一人当たりでも,5,280 円から 5,884 円へと 604 円増加（増加率+11.4%）している。

広島県 観光消費額（総額・一人当たり）推移（2008 年～2017 年）

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
観光消費額(億円)	2,974	2,876	3,030	3,045	3,356	3,580	3,610	3,865	4,062	4,112
一人当たり観光消費額(円)	5,280	5,201	5,433	5,504	5,695	5,860	5,840	5,840	5,994	5,884

（資料）広島県「広島県観光客数の動向」

(5) まとめ

来町者は広島県内客にとどまっていることから、町外者の交流人口増加に向けて、更なる宣伝活動により、海田町を知ってもらう取組を行うほか、日帰り客が圧倒的多数を占めていることから、滞在人口の滞在時間長期化を促すための仕組みづくりを検討していく。

更に、外国人観光客も増加基調であるため、上記同様、しっかりとした取組を行っていく。

2. 海田町観光の満足度

アンケートの実施内容

アンケートは、以下の表記の内容で実施している。

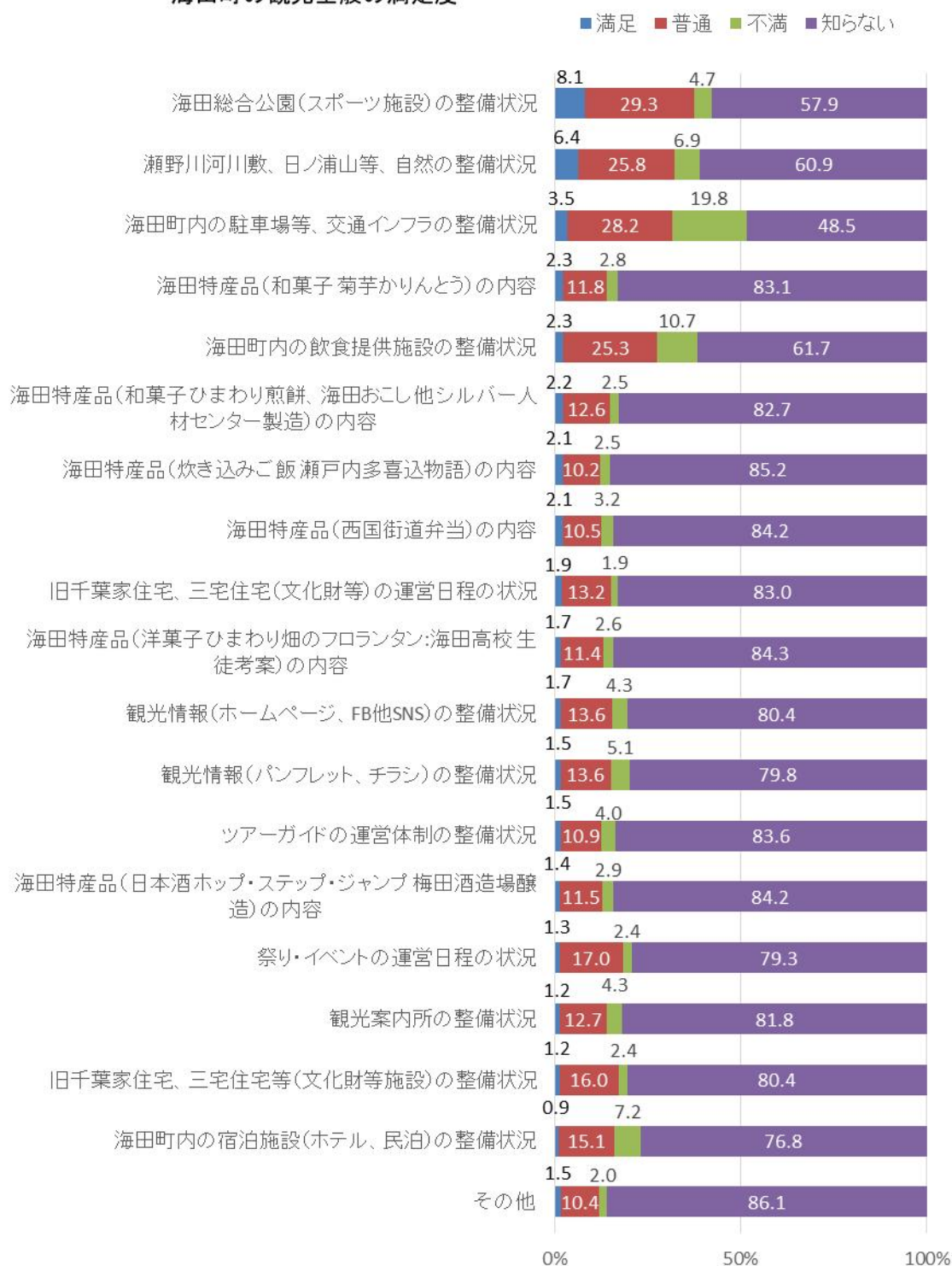
調査対象	海田町外（広島市，呉市，東広島市，府中町，坂町，熊野町）者
実施日時	2019年1月15日～17日（3日間）
調査方法	Webアンケート
回答者数	計1,000人

調査対象	海田町内（海田公民館，海田東公民館 利用者対象）者
実施日時	2019年1月29日～2月8日（11日間）
調査方法	聞き取り調査
回答者数	計100人

(1) 町外者アンケート

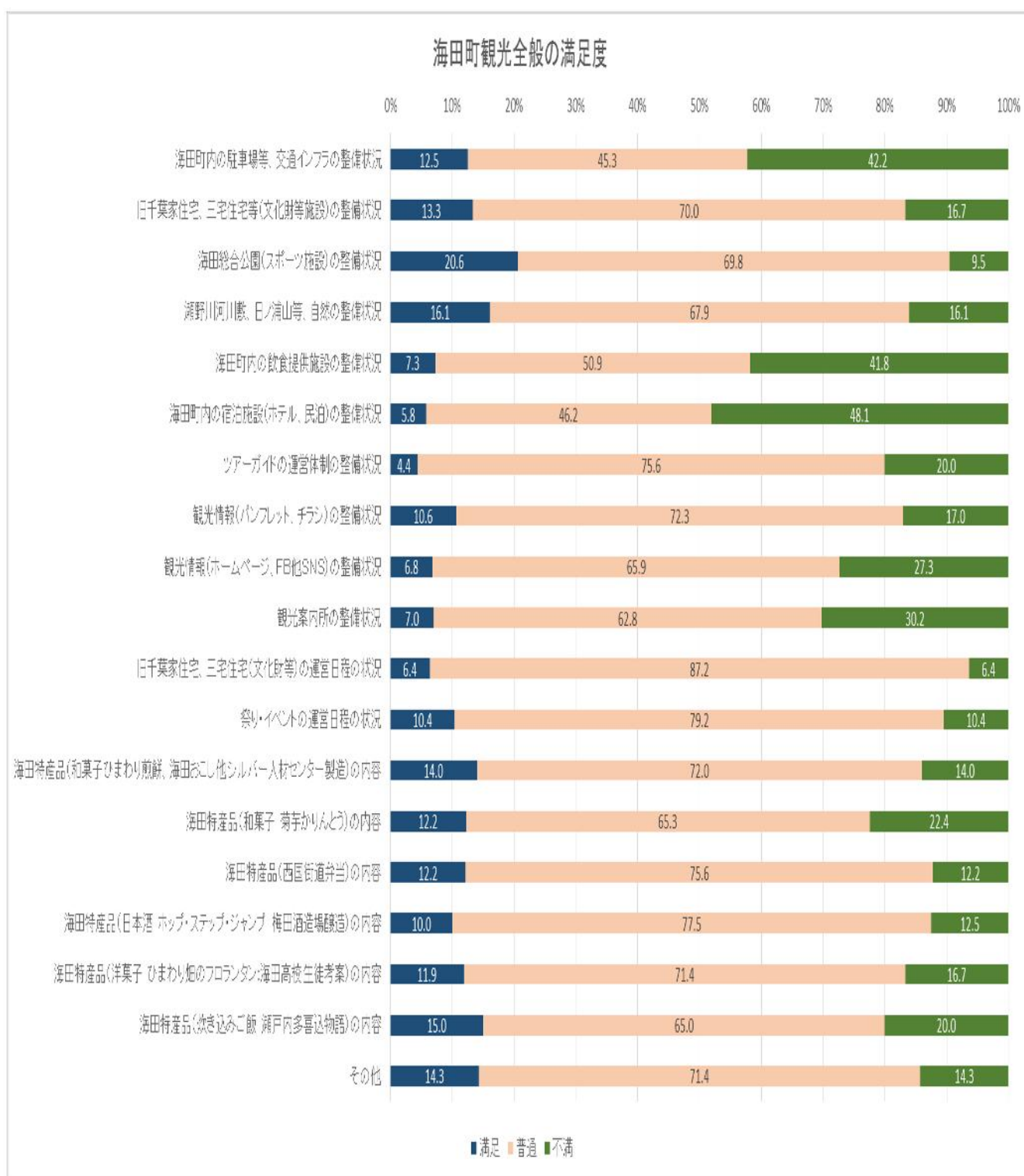
海田町外の方を対象とした「Web アンケート」において、海田町の観光全般の満足度について尋ねたところ、「知らない」とする回答が最も多く、「満足」とした回答割合が高かった項目は、「海田総合公園（スポーツ施設）の整備状況」8.1%、「瀬野川河川敷、日ノ浦山等、自然の整備状況」6.4%、「海田町内の駐車場等、交通インフラの整備状況」3.5%などの順となった。

海田町の観光全般の満足度



(2) 町民アンケート

海田町民の方を対象としたペーパーベースでの「町民アンケート」について、海田町の観光全般の満足度について尋ねたところ、「満足」と「普通」の回答割合が高く各項目でいずれも過半数を超えている。一方で、「不満」とする項目は、「海田町内の宿泊施設（ホテル、民泊）の整備状況」48.1%、「海田町内の駐車場等、交通インフラの整備状況」42.2%、「海田町内の飲食提供施設の整備状況」41.8%、「観光案内所の整備状況」30.2%、「観光情報（ホームページ、フェイスブック等のSNS）の整備状況」27.3%、などの順となっている。



(3) アンケート結果まとめ

海田町外者を対象とした Web アンケートでは、海田町全般の満足度について確認したところ、知らないとする回答が多数を占めていたが、海田総合公園や瀬野川河川敷、日ノ浦山等、スポーツや自然に関する満足度が高い結果であった。

また、海田町内者を対象とした町民アンケートでは、海田町全般の満足度について確認したところ、満足と普通とした回答が多数を占めており、Web アンケートの結果と同様、海田総合公園や瀬野川河川敷、日ノ浦山等、スポーツ関連施設や自然に関する満足度が高い結果であった。

アンケート結果から読み解くと、町内者並びに町外者ともに、スポーツ関連施設や自然に関する満足度が高い結果であった。

西国街道周辺の観光振興と併せて、集客力のある海田総合公園や瀬野川河川敷、日ノ浦山等、スポーツ関連施設や自然資源の観光活用に向けた取組を進めていき、海田町の観光資源の認知度を高めていく取組が必要である。

3. 現状と課題

アンケート調査及び神社・寺院、民間任意団体、公的団体等へのヒアリングを行った結果、「強み」、「弱み」、「機会」、「脅威」を分析し、(1)積極的戦略、(2)付加価値化戦略、(3)段階的施策、(4)防衛に分類したものが、次頁の表である。

【分類手法の説明】

本分析は、海田町と海田町を取り巻く環境などを「強み」、「弱み」、「機会」、「脅威」の四つのカテゴリーに分けて、下表のように交差させて対応すべき課題を抽出するという手法である。

本手法は経営戦略策定方法の一つとして、戦略の選択肢を示す枠組みとして活用されている。

【分析表の見方】

	「強み」	「弱み」
	(例) 「西国街道周辺の古い町並み」	(例) 「情報発信力が弱い」 「住民活動参加者の固定化」
「機会」	(1)積極的戦略	(3)段階的施策
(例) 「観光客増加」	「強み」 × 「機会」 「強み」によって「機会」を最大限に活用するために取り組むべきこと。 (例) 「西国街道周辺の古い町並み」 × 「観光客増加」 ＝西国街道周辺の歴史資源等を深堀し、海田町ならではのストーリーを作る。	「弱み」 × 「機会」 「弱み」によって「機会」を逃がさないために取り組むべきこと。 (例) 「情報発信力が弱い」 × 「観光客増加」 ＝ホームページのリニューアルを図る。
「脅威」	(2)付加価値化戦略	(4)防衛
(例) 「住民活動参加者の高年齢化」	「強み」 × 「脅威」 「強み」によって「脅威」による影響を回避するために取り組むべきこと。 (例) 「西国街道周辺の古い町並み」 × 「住民活動参加者の高年齢化」 ＝西国街道活性化のための組織づくりを行い、後継者育成の継続的実施。	「弱み」 × 「脅威」 「弱み」と「脅威」によって悪い結果を回避するために取り組むべきこと。 (例) 「住民活動参加者の固定化」 × 「住民活動参加者の高年齢化」 ＝町民の参画意識高揚を図る

【調査結果の分析】

	「強み」	「弱み」
	・被爆して焼けていないので、江戸時代からの町屋の雰囲気を残している。 ・文化財級の寺院など、木造建物が現存している。 ・昔ながらの路地が残っている。 ・古い家具や写真などが個人で保管されている。 ・各団体は住民活動に積極的である。 ・海田市駅周辺には、老舗の食肉店の揚げたてコロッケや、造り酒屋（船越）がある。 ・お好み焼き屋さんが多い。 ・西国街道を学ぶ機会は、教育活動の中で提供されている。 ・スポーツ施設（海田総合公園）の利用者は多い。 ・瀬野川河川敷の利用者は多い。 ・日ノ浦山の登山者は多い。 ・吹奏楽のイベントは積極的に行っており、満足度は高い。 ・海田町外からイベントに参加してくれる人もいる。 ・第二次産業の工場群がある。 ・元プロ野球選手を多数輩出している。	・海田町には観光協会などがない。 ・海田町には人に勧めたくなるような、名の通った特産品がない。 ・海田市駅周辺には飲食する場がない。 ・海田市駅周辺には歓談できる場がない。 ・海田町の情報発信力が弱い。 ・行政の広域連携が見えてこない。 ・町民が関心を持っていない。 ・30代～40代で、集まってイベント等を企画する動きが見えない。 ・旧千葉家住宅は開館日数が限定されており、いつでも観覧できない。 ・住民活動への参加者は固定化されており、新しい人がなかなか入らない。 ・外国からの観光客を案内するスキルが不足しており、事前準備が必要である。 ・観光客の受入体制（案内看板・公共トイレ）が出来ていない。 ・各団体は個々で活動しているが、全体でまとめてイベントを開催するのは苦手である。 ・公共施設に利用制限がある。
「機会」	(1)積極的戦略	(3)段階的施策
・広島に来る海外からの観光客が増加している。 ・マツダスタジアムの試合観戦に來た、来訪客が徐々に増えてきた。 ・浅野氏が広島城に入城してから400年の応答年となる。	・観光推進体制を整備する。→【取組2, 6】 ・西国街道周辺の歴史資源を深掘りし、海田町ならではのストーリーを作って集客する。→【取組1, 4】 ・織田幹雄氏の功績を新たに設置する記念館で称えるだけでなく、偉大な記録を体感できるような仕組みを作り観光誘導を図る。→【取組7】 ・スポーツ施設・瀬野川河川敷・日ノ浦山の利用者の満足度を高める策を検討する。→【取組10】 ・地元の商店や酒蔵への協力を仰ぐ。→【取組5】 ・飲食店に観光客を誘客出来る案内を作成する。→【取組10】 ・音楽のまち海田を町外に発信できるような情報発信を検討する。→【取組9】 ・海田市駅から西国街道周辺において、全体でまとまって出来るイベントを企画する。→【取組3】 ・町内出身の元プロ野球選手から寄贈されているユニフォームなどのグッズの展示を検討する。→【取組8】 ・広島市や他町等との広域連携による西国街道イベントの活性化。→【取組3】 ・著名人の観光大使就任による情報発信。→【取組2】	・観光協会など、観光関連組織の設立。→【取組2】 ・飲食するスペースやくつろげる場所の設置により観光客の満足度を高める。→【取組5, 6】 ・観光客を誘致するための受け皿として、新規創業支援策を行政・民間で検討する。→【取組5】 ・海田町HPの情報発信力は弱いことから、観光客目線で、誘致を図るためのリニューアルを行う。→【取組12】 ・町屋づくりの街並みであり、外国人観光客目線では、いい雰囲気と思われることから、受入を行うための体験型イベントの提供を検討する。→【取組2】 ・特産品について、知名度アップのための情報宣伝や、広島安芸商工会との連携による事業者による新たな特産品の開発など進める。→【取組5】 ・旧千葉家住宅をいつでも観覧できるよう受入体制を整える。→【取組13】 ・（仮称）海田公民館のフリースペースの有効活用を図る。→【取組6】 ・行政の柔軟性のある対応を期待する。→【取組13】
「脅威」	(2)付加価値化戦略	(4)防衛
・住民活動への参加者の年齢層が上がってきており、後継者づくりに課題がある。 ・海田市駅から西国街道周辺が徐々に衰退している。	・西国街道活性化に向けた新たな組織づくりと、具体化なビジョンの共有を図るとともに、後継者育成を継続的に行う。→【取組11, 13】 ・古民家の活用策を検討していく→【取組1】	・行政・民間での相互協力により、町民の参画意識の高揚を図る。→【取組11, 13】 ・海田町の観光地としての魅力を高め交流人口拡大を図る。→【取組1, 12】

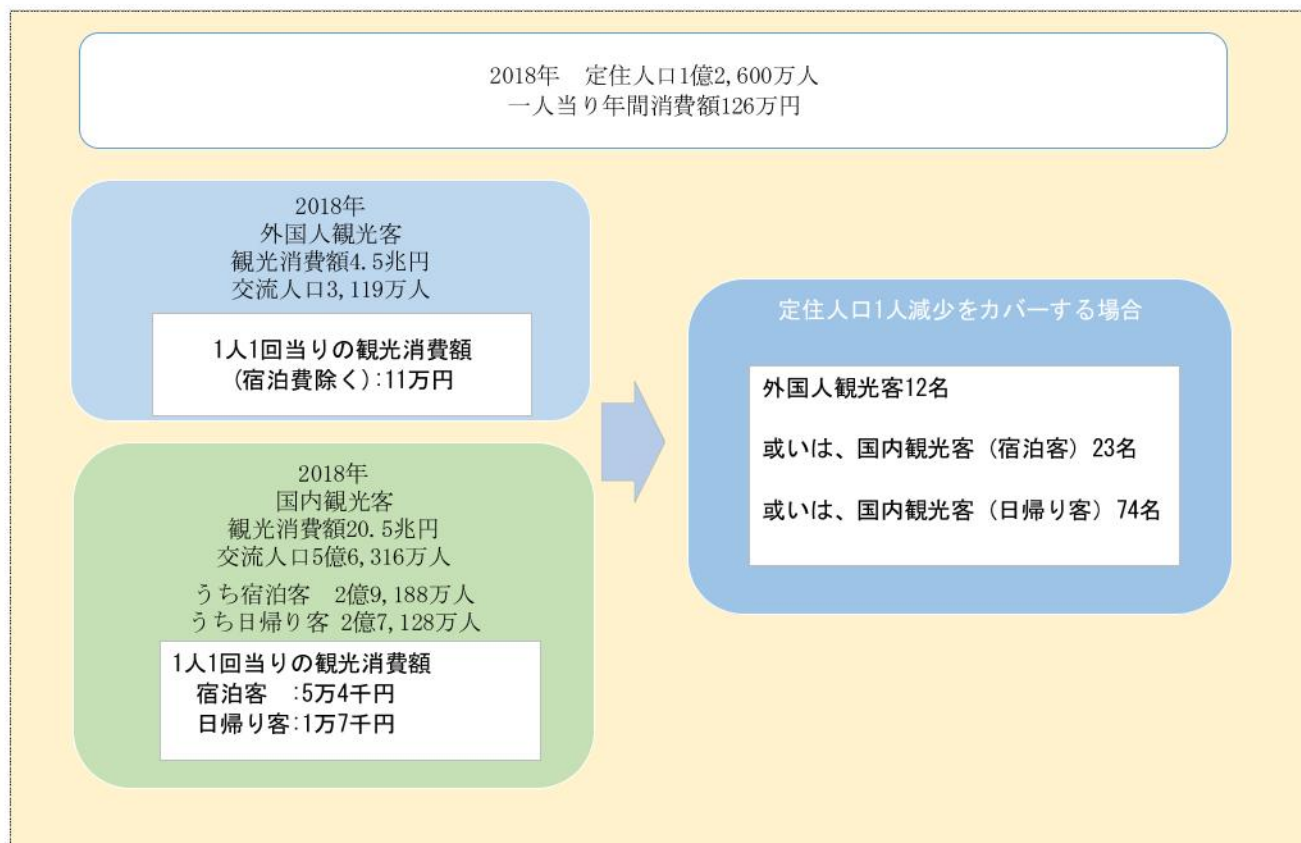
IV. 観光にかかる目標設定

アクションプランにかかる数値目標の具体的試算

観光振興を推進していく上で、基準となるのは観光客数である。今回の観光振興アクションプランでも観光客を如何に誘引するかが求められている。

1. 国の観光交流人口試算

定住人口減少を観光交流人口増大により補完する場合について検証すると、以下の表の通り試算できる。



（資料）総務省「人口統計」「家計調査」、観光庁「旅行・観光消費動向調査」「訪日外国人消費動向調査」を参考に作成

2. 海田町観光交流人口の試算

(1) 人口予測から見た交流人口見込み

海田町と海田町外（周辺自治体：広島市，府中町，坂町，熊野町，呉市，東広島市）の将来推計人口をベースとして，海田町の今後の観光客数を推計する。

2018年に国立社会保障・人口問題研究所が公表した将来推計人口の数値をベースに，海田町で検証した将来推計人口の数値と実績値等による修正を行ったものが下表となる。

海田町の人口は，現在増加傾向にあり，2020年まで3万人を維持し，海田町外（周辺自治体：広島市，府中町，坂町，熊野町，呉市，東広島市）の人口も，2020年まで170万人を維持するという推計結果となった。

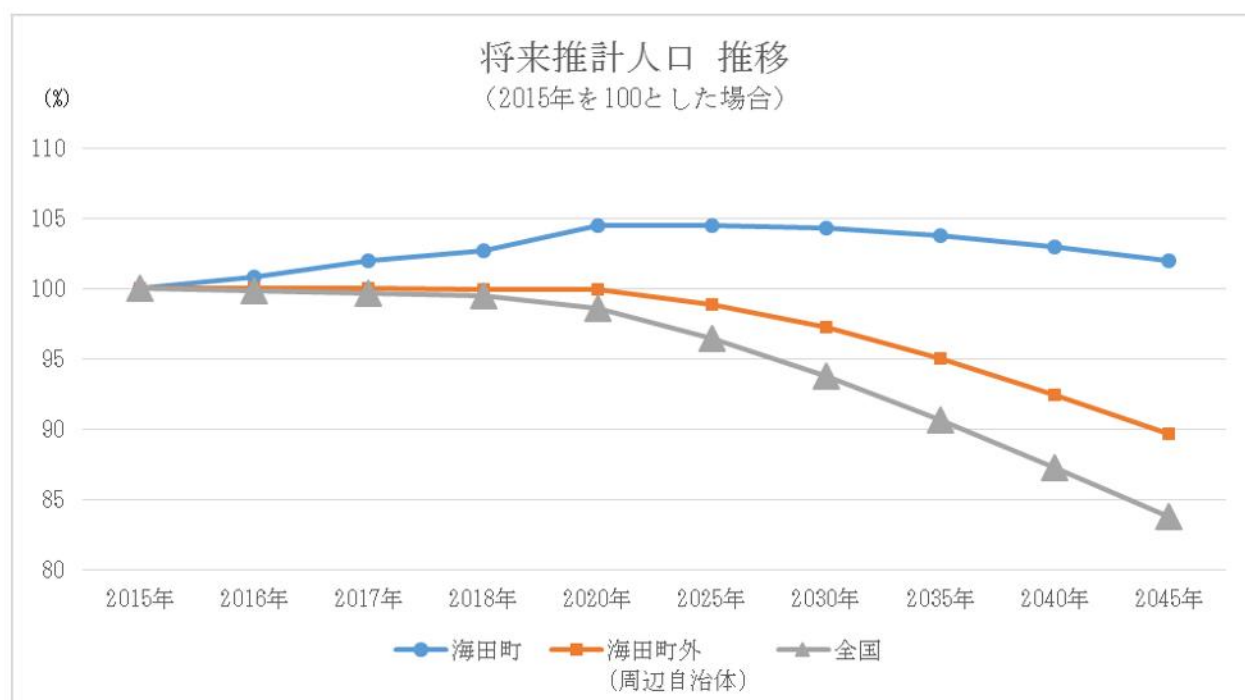
2015年の人口を100とした場合をグラフとして下記に示しているが，海田町の人口は2045年時点では2015年の人口を上回る予測となっている。

海田町と海田町外（周辺自治体），全国の将来推計人口

（単位：千人）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
海田町	28.7	28.9	29.2	29.4	30.0	29.9	29.9	29.8	29.5	29.3
海田町外 （周辺自治体）	1,703.0	1,703.9	1,703.5	1,702.2	1,702.0	1,684.3	1,656.0	1,618.7	1,574.6	1,527.1
全国	127,095.0	126,933.0	126,706.0	126,466.0	125,324.8	122,544.1	119,125.1	115,215.7	110,918.6	106,421.2

（資料）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」他，総務省「人口推計」
海田町「海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」より作成



2017 年の来町者数 28 万 1 千人を下表の通り、海田町と海田町外（周辺自治体：広島市、府中町、坂町、熊野町、呉市、東広島市）に按分して、その値に将来推計人口の増減率を乗じて、今後の海田町の来町者数を推計すると、2030 年に 18 万 8 千人まで達した後、減少に転じ、2045 年には 18 万 4 千人となる推計結果となった。

また、海田町外（周辺自治体：広島市、府中町、坂町、熊野町、呉市、東広島市）については、2035 年まで 9 万 7 千人を維持した後、減少に転じ 2045 年には 9 万 4 千人となる推計結果となった。

海田町と海田町外（周辺自治体）における今後の来町者数

（単位：千人）

	2017年	2018年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
海田町	184.0	185.0	188.0	188.0	188.0	187.0	186.0	184.0
海田町外 （周辺自治体）	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	96.0	94.0
合計	281.0	282.0	285.0	285.0	285.0	284.0	282.0	278.0

（資料）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」等
海田町「海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」より作成

（2）来町者増加を企図した取組

（1）で示したように定住人口の低下は全国都道府県で予測されており、海田町以外の地方公共団体も、今後、定住人口の低下を交流人口の増加により補完していく動きとなると想定されるが、海田町は、他の地方公共団体と比較して将来推計人口の落込み影響は少ないものと想定される。

今回、観光振興アクションプランを推進していくにあたり、以下の 2 項目を基軸にした取組を検討していくこととする。

①国内観光客数

広島県は「ひろしま観光立県推進基本計画」において、2022 年までの目標として、国内観光客数を 154 万 3 千人増（2.3%増）、外国人観光客は 356 万 7 千人増（146.6%増）を目標としている。

海田町においては、外国人観光客の受け入れ体制が整っておらず、大幅な増加は見込まれない一方で、（仮称）織田幹雄記念館の整備や旧千葉家の改修といったハード整備を行っているため、県の目標より高い 2 万 7 千人増（9.6%増）とし、外国人観光客とあわせて 10%増を目標とする。

2020 年に改修される旧千葉家住宅は、一部が休憩スペースとして使用可能になるほか、（仮称）海田公民館及び（仮称）織田幹雄記念館が平行して整備されるため、来場者が大幅に増えることが見込める。そのため、2023 年度は 2017 年度の来場者の 3 倍近くの 9,000 人を目標とする。

②外国人観光客数

広島県は、「ひろしま観光立県推進基本計画」において、2022 年までの目標として、600 万人を誘客することとしている。海田町においては、外国人観光客の受入体制を整える必要があり、外国人観光客に実際に来てもらうことを目標とし、1 千人と設定する。

【海田町 総観光客数増加目標値】

(単位:千人)

指標	現状 (a) 2017年	目標値 (b) 2023年	増減 (b) - (a)	増減率
総観光客数	281	309	+28	10.0%
国内観光客数	281	308	+27	9.6%
外国人観光客数	0	1	+1	-

(参考) 広島県 「ひろしま観光立県推進基本計画」

指標	現状 (a) 2017年	目標値 (b) 2022年	増減 (b) - (a)	増減率
総観光客数	69,890	75,000	+5,110	7.3%
国内観光客数	67,457	69,000	+1,543	2.3%
外国人観光客数	2,433	6,000	+3,567	146.6%

V. 海田町の取組

1. 基本施策と取組

ヒアリング並びにワーキンググループで出された意見や各種アンケート結果に基づき、検討委員会で出された意見により施策に優先的に取組む課題（網掛け）を決定し、基本的な施策、取組をまとめたものが下表である。

海田町内外の人を惹きつける魅力あるまちづくり	西国街道周辺を活かした魅力づくり	
	取組1 【優先事項】	ストーリー性をもたせた魅力づくり
	取組2	インバウンド需要を取込むための魅力づくり
	取組3	広域周遊観光としての魅力づくり
	取組4 【優先事項】	地域に眠る資源の発掘と伝承
	取組5 【優先事項】	地域の食文化を活かした食と土産物の創出
	取組6	海田市駅から西国街道周辺の環境整備
	「スポーツ・文化・自然のまち」海田を活かした魅力づくり	
	取組7 【優先事項】	織田幹雄氏の功績を活かした魅力づくり
	取組8	町内出身のアスリートの活躍などを活かした魅力づくり
	取組9	文化団体と連携した魅力づくり
	取組10	海田総合公園，瀬野川河川敷，日ノ浦山などと連携した魅力づくり
	歴史・文化に親しみ、愉しむことが出来る体制づくり	
	取組11	地域の魅力を伝えるガイドの養成
	取組12 【優先事項】	海田町の魅力が伝わる情報発信力の強化
	取組13 【優先事項】	西国街道の魅力発信を継続的に行うための体制づくり

2. 取組と具体的な実施内容について

(1) 西国街道周辺を活かした魅力づくり

①【取組1】 ストーリー性をもたせた魅力づくり【優先事項】						
【目的】	旧千葉家住宅が在る西国街道周辺は原爆による被害がなく、昔ながらの町屋が未だ残る、たたずまいのある町並みであり、一歩路地に足を踏み入れると、昭和の時代を色濃く残す、郷愁を誘う雰囲気が残っている。 そうした地域の歴史資源の保全を図るなかで、町並みの中に残されている歴史、ストーリーを紡ぎ出し、周遊ルートの深堀りによる物語の発掘や、新たなテーマ発掘による新しい周遊ルートの創出により、地域全体の魅力向上を推進していく。					
【主な取り組み】	・西国街道ツアーの内容充実 住民の方々の協力により、路地裏の建物や祠のいわれを調べるほか、知られざる魅力スポットなどを発掘することにより、ツアーの内容の更なる充実を図る。 ・旧千葉家住宅の歴史紹介 現在の旧千葉家住宅の一般公開の際に、千葉家にまつわる歴史的資料を展示する企画を行うことを検討する。 ・古民家の再生と活用 西国街道沿いの歴史ある民家（古民家）を再生し、利活用を図る。 ・魅力あるストーリーの取りまとめ 瀬野川河川敷で行われている芝桜の植え付けなど他の地域と連携した事業のストーリーづくりを検討していく。 また、近隣地域も入れ込んだ登山ルート（安芸アルプス）の整備づくりを検討する。					
【事業の実施スケジュール】	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	町内関連部署
西国街道ツアーの内容充実	実施内容見直し 試行実施 実施内容軌道修正 定着化					企画部 教育委員会
旧千葉家住宅の歴史紹介	千葉家の歴史的資料を展示する企画の検討					
古民家の再生と活用	家主との協議、利活用方法検討					
魅力あるストーリーの取りまとめ	町内関連部署の協議、広域連携による検討					

②【取組2】							インバウンド需要を取込むための魅力づくり					
【目的】	厳島神社や原爆ドームを中心に、海外からの観光客が数多く広島を訪れているが、現在、呼び込みが出来ていないのが現状である。 海田町は生活感があり、調和のとれた佇まいであることから、地の利を活かした体験型プログラムなどを国際交流協会と連携して提供し、集客を図ることとする。											
	・和文化的提供による集客力強化 海田町内で、和文化的〔写経や座禅、習字や障子貼り、太鼓の演奏、着物（和服）の着付け、茶道、華道など〕の体験が出来るようなプログラムの提供を検討し、広島を訪れた海外からの観光客の誘客を図ることとする。 また、海田町独自の歴史文化体験（さつま汁、太鼓）など、海田町の歴史ある料理であるさつま汁の体験や太鼓の体験ができるような場を検討する ・著名人の魅力PR大使就任による情報発信 海田町出身の著名人を観光大使として委嘱することを検討する。 ・観光推進体制の整備 今後、より多くの人に海田町を知ってもらい、来てもらうために、観光を推進する仕組みづくりを検討していくこととする。											
【主な取り組み】	【事業の実施スケジュール】						2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	町内関連部署
	和文化的提供による集客力強化						検討	試行実施	実施内容軌道修正	修正内容実施		企画部
	著名人の魅力PR大使就任による情報発信						著名人検討、町内関連部署調整		実施			
	観光推進体制の整備						新たな組織づくりに向けた協議・調整・検討					

③【取組3】

広域周遊観光としての魅力づくり

【目的】

旧千葉家住宅や三宅家住宅を中心とした西国街道は、厳島神社や原爆ドームのように認知度が低いことから、西国街道を繋ぐ近隣自治体との連携により、点から面へと拡がりを持たせた※「コトづくり」が必要であるとする。
また、海田町はマツダ株式会社の協力企業など工場群を有しており、町内の産業を深掘りして昔の産業や生活様式の発掘と工場見学による誘客により、新たな魅力づくりを進めていく。
※「コトづくり」は、モノに物語や体験など高い付加価値を持たせた地域ブランドを組成すること。

【主な取り組み】

・ 広域連携による西国街道ツアー実施
西国街道周辺の地方公共団体との連携により、海田町単独ではできない取組、例えば、西条から宮島口までの大名行列（各行政単位のたすきリレー）や、広島市西区草津の西国街道周辺地域（神社・仏閣）の御朱印を集めて、最後まで完結したらクーポン券を配布するといったことを通じ、地域の文化の周知を図ることとする。

・ 地元企業の協力による産業観光
地元企業の協力が不可欠であるが、海田町には第二次産業の工場群があることから、企業を知ってもらう機会を設けるとともに、学びと体験の場として活かしていくこととする。

・ 他地域の観光情報提供
他地域の観光情報について、海田町の公共施設で観光パンフレット等を配布する。

・ 広域周遊のマップづくり
海田町単独ではなく、近隣地方自治体と共同で広域での観光マップ作成を検討する。

【事業の実施スケジュール】	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	町内関連部署
広域連携による西国街道ツアー実施	検討	試行実施	実施内容軌道修正	修正内容実施		企画部
地元企業の協力による産業観光	検討	試行実施	実施内容軌道修正	修正内容実施		
他地域の観光情報提供	観光情報取得・提供					
広域周遊のマップづくり	近隣地方自治体との協議・検討・作成					

④【取組4】 地域に眠る資源の発掘と伝承【優先事項】						
【目的】	生活様式の変化により失われつつある古くからの歴史や文化を残していくために、歴史的資料や生活資料を保存し、伝承していく必要がある。 後世へ伝えていく方法としても、資料を集約したものを目に見える形で残すなど、伝わりやすさに配慮する。 また、古くからの伝統的な催しを継続、発展させ、後世へ伝えていく。					
【主な取り組み】	・ 海田町民を対象とした情報提供 提供頂いた古い風景写真や生活用具を旧千葉家住宅をはじめとした公共施設において企画展示を開催することにより、昔ながらの生活様式を伝える場を設けることとする。 集めた海田の古い風景写真を写真集として整えることにより、後世にも伝承できるようにする。 ・ 頂戴（みこし）の復活 現在、火ともしまつりなど地域の文化的な祭りが継承されている中で、古くより海田の秋祭りの賑わいとして親しまれてきた頂戴（みこし）がここ数年は担い手不足から休止している。 この頂戴（みこし）を復活させ、後世へ伝えていく。					
【事業の実施スケジュール】	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	町内関連部署
海田町民を対象とした情報提供	提供者探索作業（民間任意団体の協力により実施）					企画部 教育委員会
頂戴（みこし）の復活	課題検証	施行実施				

⑤【取組5】 地域の食文化を活かした食と土産物の創出【優先事項】							
【目的】	海田市駅周辺は、西国街道ツアーで観光客を誘致しても飲食が出来る店が乏しい。または広島で食事をしてもらうという状況である。このため飲食場所や休憩所の提供を行うとともに、海田町の新たな特産品の創出により、土産物購入につながるような魅力づくりを行う。						
【主な取り組み】	・海田市駅周辺の事業者との協働 海田市、稲荷町、中店、上市、新町、船越付近の事業者との協働により、飲食の提供が出来るお店を募り、西国街道ツアーの街歩きや日ノ浦山の山歩きが終わって、ゆっくりしたい方々を誘導し受入を行う体制を整え、地元で消費してもらえ環境を整えることを検討する。 ・特産品の創出 ひまわり畑のフロランタンや菊芋かりんとうなどは、まだ知名度が低いことから、更なる情報宣伝に努めるとともに、新たな特産品を創出するため、地元企業とタイアップし、美味しい水と小豆を活かした商品開発などに取組み、海田町内で特産品を買ってもらう機会を高めていく。 ・新規創業のサポート体制構築 西国街道周辺で事業を行う意思のある者に対し、地元企業と海田町・商工会などによるサポート体制を明確に打ち出すための取組を行う。 ・旧千葉家住宅の納屋などの活用 旧千葉家住宅の納屋などを活用して、観光客の休憩所や軽食の提供が出来れば、海田町での滞在時間向上に繋がるものと考えられる。 ・海田町の特産品や工芸品、産直野菜の販売 広島安芸商工会と連携して事業者と協議するなかで、海田町の特産品や工芸品、町産野菜等を積極的にPRしていく。						
	【事業の実施スケジュール】	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	町内関連部署
	海田市駅周辺の事業者との協働	事業者への聴取・ニーズ把握～具体的な着手・実施～定着化					企画部
	特産品の創出	幅広く公募、エントリー者の意向把握～具体的な着手・実施～改善～定着化					
	新規創業のサポート体制構築	既存制度の調査～商工会、公的・民間金融機関と協議～具体的なサポート体制確立					
旧千葉家住宅の納屋などの活用	利用方法の検討（民間任意団体等の意向を聴取、町内関連部署との調整）、実施						
海田町の特産品や工芸品、産直野菜の販売	商工会と連携して事業者と協議・検討・実施						

⑥【取組6】 海田市駅から西国街道周辺の環境整備						
【目的】	JR海田市駅から旧千葉家住宅周辺の西国街道の間を周遊する際に、誘導案内が不足している、休憩所などの公共スペースがない、といった声が挙げられている。観光客の受入体制が整っていない状況から、中長期的な展望を持って環境整備を行い、魅力あるまちづくりを行っていく必要がある。					
【主な取り組み】	・観光客の動線を考慮した環境整備 海田市駅北口の公衆トイレの整備や海田市駅前に西国街道周辺の魅力をPRするための看板拡大などのリニューアル、海田市駅から旧千葉家住宅の間に案内標識の掲示や、通信インフラとしてのWi-Fiの設置やデジタルサイネージ（電子看板）の設置（海田町の歴史や織田幹雄氏の紹介など豆知識の提供）、休憩スペースの設置といった、観光客に喜ばれる、楽しませる取り組みを行い、再訪して頂けるような仕掛けづくりを行う。					
【事業の実施スケジュール】	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	町内関連部署
観光客の動線を考慮した環境整備	町内関連部署の協議、民間任意団体の意向等を確認する中で、随時修繕等に着手					企画部 教育委員会 建設部

(2) 「スポーツ・文化・自然のまち」海田を活かした魅力づくり

①【取組7】 織田幹雄氏の功績を活かした魅力づくり【優先事項】						
【目的】	海田町は日本人初のオリンピック金メダリストである、織田幹雄氏の出身地であり、新設される（仮称）海田公民館には（仮称）織田幹雄記念館が設置されることになっている。 町内のみならず、織田幹雄氏の功績に関しては、町外のような機関とも連携を図りながら、広くPRすることにより、町の魅力を発信する。					
【主な取り組み】	・ 織田幹雄氏の功績を活かした取組 織田幹雄氏に関しては、東京都渋谷区と連携した情報宣伝や、（仮称）織田幹雄記念館とリンクした活動を検討していくほか、ジャンプ＆ラン大会の継続実施や、織田幹雄記念国際陸上大会において町花ひまわりをポスター掲載してもらえるよう依頼するなど、持続的な取組を行っていく。 ・ 織田幹雄氏の顕彰 海田市駅から（仮称）織田幹雄記念館までの間に、織田幹雄ロードを設けることを検討するとともに、その中に織田幹雄氏の記録した15.21mを体感できる意匠の設置などを検討していく。					
【事業の実施スケジュール】	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	町内関連部署
織田幹雄氏の功績を活かした取組	町内関連部署の協議、広域連携による持続的な取組					企画部 教育委員会 建設部
織田幹雄氏の顕彰	町内関連部署の協議、意匠等の設置					

②【取組8】 町内出身のアスリートの活躍などを活かした魅力づくり						
【目的】	海田町は地元出身のプロ野球選手を6名輩出しており、町内出身のプロ野球選手の知名度は高く、西国街道ツアーに参加された方々のなかにも、マツダスタジアム観戦の合間に立ち寄られた方もいることから、彼らの活躍などを知って頂く場を提供する。					
【主な取り組み】	・町内出身のプロ野球選手の足跡をたどる 現在、町内出身のプロ野球選手の展示品の展示場所が一般に知られていないことから、展示場所・展示品を含め検討し、広く海田町のプロ野球選手を称えることとする。					
【事業の実施スケジュール】	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	町内関連部署
町内出身のプロ野球選手の足跡をたどる	展示場所決定、情報発信による誘客					企画部 教育委員会

③【取組9】文化団体と連携した魅力づくり						
【目的】	海田町では、学生から社会人における吹奏楽団の演奏活動が活発に行われており、町内でのイベントにも参加したりしていることから、「音を楽しむ」、をベースとした、魅力づくりを推進していく。 また、海田町では、海田鼓童子や鬼之城神楽団といった和 문화に積極的に取り組んでいる団体があり、海田町ならではの、イベント開催を積極的に行っていく。					
【主な取り組み】	・活動団体のさらなる連携 現在、音楽祭実行委員会がふれあいコンサートなどを実施しており、様々な音楽団体が活動している。「音楽のまち 海田町」を広くアピールするために、活動団体のさらなる連携を図っていく。 ・各団体交流による幅広い運営 太鼓と神楽といった地元の和 문화団体同士のジョイントコンサートや、他の神楽団とコラボしたコンサートを実施することなど、「音楽のまち 海田町」の雰囲気の醸成を図っていく。 ・歴史文化公演の実施 海田町の歴史に関わることや落語や神楽などの文化的なイベントの充実を図る。					
【事業の実施スケジュール】	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	町内関連部署
活動団体のさらなる連携	町内各音楽団体の協議		具体的な実施内容等検討			企画部 教育委員会
各団体交流による幅広い運営	町内和 문화楽団の調整、具体的な実施内容等検討					
歴史文化公演の実施	町内関連部署と協議、文化イベント等の企画・検討・実施					

④【取組10】 海田総合公園、瀬野川河川敷、日ノ浦山などと連携した魅力づくり						
【目的】	海田町を訪れている観光客の大半は、海田総合公園をはじめとした施設や自然を活かした瀬野川河川敷、日ノ浦山登山コースに来ていると思われることから、子供連れの親子を対象とした、西国街道周辺への誘致を行うこととする。					
【主な取り組み】	・西国街道＆飲食ツアーの提供 海田総合公園等に観光案内のパンフレットを置き、運動などで利用した後、西国街道へ誘引し、飲食店に立ち寄ってもらえるような体制づくりをする。 ・自然資産の活用 海田総合公園の整備によるデイキャンプの実施や日ノ浦山の登山ルート整備、スケートパークの活用によるアウトドアスポーツの推進や、瀬野川河川敷での四季の体感（芝桜や野鳥観察など）が感じてもらえるように情報発信し、更なる交流人口の拡大を図っていく。 ・シティサイクルの導入 海田町内を気軽に周遊出来る仕組みづくりとして、交通の起点となる箇所にシティサイクルを設置し、観光客の利便性を高めていくことを検討することとする。					
【事業の実施スケジュール】	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	町内関連部署
西国街道＆飲食ツアーの提供	町内施設へのパンフレット設置、事業者の協力、駐車場等の整備					企画部 建設部
自然資産の活用	町内関連部署の協議、施設等の整備					
シティサイクルの導入	町内関連部署の協議、施設等の整備					

(3) 歴史・文化に親しみ、愉しむことが出来る体制づくり

①【取組11】 地域の魅力を伝えるガイドの養成						
【目的】	海田には江戸時代からの古い町並みが残されているが、町民が地域の文化財等を十分認知しているとは言いがたく、また、将来的な人口減少局面において、地域の文化財等や伝統な和 문화が継承できなくなる恐れがある。 そのため、町民自ら、地域の歴史資源等や伝統的な和 문화を保存・活用し、将来に向けて継承していく取組が必要である。そうした取組を行うことで、地域に埋もれた歴史資源等の由来を検証し、町外からの観光客に対し、町民が自信をもってガイド出来る体制、並びにベテランのガイドの高いスキルをビギナーのガイドへ伝承していくような体制を構築していく。					
【主な取組】	・観光ボランティアガイド育成 町民に幅広く海田町の歴史や文化に親しんで理解を深めてもらい、観光客へ紹介する役割を担う町民の育成を行っていくこととする。幅広く町民を募り、ベテランのガイドの協力を仰ぎ、継続的な研修等を行い、海田町の歴史資源等の情報発信を積極的に行う体制を整える。 ・地域の歴史資源等の認知・積極的保存 町民の郷土愛を深めてもらうため、ボランティアにより小学生を対象に現在実施されている地域の歴史めぐりなど、地域に在る歴史資源等の活用を、幅広い世代層で実施するなかで、次世代へ継承していくとともに、各々がSNS等による情報発信を行うことを期待する。					
【事業の実施スケジュール】	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	町内関連部署
観光ボランティアガイド育成	随時人材募集。知識の伝承を継続的に実施					企画部 教育委員会
地域の歴史資源等の認知・積極的保存	実施内容検討		試行実施	実施内容軌道修正	定着化	

②【取組12】

海田町の魅力が伝わる情報発信力の強化【優先事項】

【目的】	海田町のホームページが観光客目線でないことや、行政であるため、特定の業者の宣伝や、営利目的の利用が出来ないという制約がある、という問題点がある。 情報発信に対する対応は喫緊の課題であり、情報発信にかかる様々な取り組みを行うこととする。					
【主な取り組み】	・ 海田町の観光情報の充実 現在の海田町ホームページは、年配の方には情報が取得しにくいという声が寄せられている。ホームページ画面の「お役立ち情報」のタグをビジュアル化すること等を含め、年配の方にも、わかりやすく、利用しやすい、観光情報の充実が図られたホームページとなるようリニューアルを検討していく。 ・ 広島安芸商工会との連携 海田町ホームページから各事業者との接点を保っている広島安芸商工会のホームページへリンクをはり、各事業者の有するホームページへのアクセスが可能となるような仕組みづくりを検討していくこととする。 ・ 観光案内所の有効利用 観光客の出入りが激しい広島駅の観光案内所には、現在、海田町の観光にかかるパンフレットが置かれていない状況から、観光協会に対して、海田町の西国街道の案内パンフレットを置かせて頂く取組を検討していく必要がある。 ・ 外国人に向けた情報発信 外国人観光客は、日本の情報をSNSにより入手することが多いことから、先ず手を付けるべき情報拡散手段であると考え。海田町の公式フェイスブックについて、海外旅行客向けの外国語での発信を検討していく。 ・ SNSの情報発信手段の有効活用 海田町において、まだ導入していないツイッターやライン、Instagramによる更なる情報拡散を図る手段を、幅広く検討していくこととする。					
【事業の実施スケジュール】	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	町内関連部署
海田町の観光情報の充実	内容見直し	試行実施	実施内容軌道修正	修正内容実施		企画部
広島安芸商工会との連携	広島安芸商工会と随時協議・随時実施・随時修正					
観光案内所の有効利用	観光協会と協議、実施					
外国人に向けた情報発信	町内関連部署の調整により実施					
SNSの情報発信手段の有効活用	町内関連部署の調整と、民間任意団体の協力により実施					

③【取組13】 西国街道の魅力発信を継続的に行うための体制づくり【優先事項】						
【目的】	海田町内の各団体は積極的に活動しているものの、全体でまとまって活動する機会がないと思われることから、主要な団体を中心として、海田町が企画している西国街道活性化に向けたアクションの一つとして、持続可能な体制づくりを構築する。					
【主な取り組み】	・ 町民活動の運営主体の明確化 運営の主体を明確に定めたうえで、住民活動の一元化を図り、町内の住民の参画意識（積極的な活動）の高揚を図る。 （仮称）西国街道連絡協議会は、「地元の方を中心に、地域に刺激を与える方と、外へ紹介・情報発信する方、イベントや活動に携わり行動する方」が参画して多様性を認め合いながら、海田町の魅力を発掘するため活動を行い、町民活動の活性化につなげていくこととする。 ・ 各団体の活動の調整 各団体の活動が活発化するとともに、持続的な組織活動が出来るように、助言や手助けを行う。 ・ 旧千葉家住宅の住民利用の多様化 様々な催しを企画することにより、幅広い年代が旧千葉家に来てもらえるようにするとともに、旧千葉家の柔軟な利活用を検討する。 ・ 文化財の管理と社会教育、社会体育、観光の連携 （仮称）織田幹雄記念館、旧千葉家住宅については、教育委員会管理とし、観光に関する行事の実施については、観光の担当部署が行う。相互に連携して観光振興を図っていくこととする。					
【事業の実施スケジュール】	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	町内関連部署
町民活動の運営主体の明確化	組織化	活性化に向けた具体的な取組				企画部
各団体の活動の調整	活性化に向けた助言・手助け					
旧千葉家の住民利用の多様化	町内関連部署の調整により検討・実施					
文化財の管理と社会教育、社会体育、観光の連携	町内関連部署の調整により連携を取る中で実施					企画部 教育委員会